

ジャポニズムの画商

[林 忠正]

Tadamasa Hayashi





1900年(明治33年)[パリ万国博覧会](#)・・・

過去最大のおよそ4,700万人が入場し、動く歩道や、1889年の第4回パリ万博に合わせて建設されたエッフェル塔にエスカレーターが設置されるなど、当時のパリは世界一の近代産業と市民生活の成熟した都市へと発展し、世界の文芸の中心地であり、まさに「花の都」と呼ばれる程の賑わいをみせた・・・

そしてこのパリ博覧会は、日清戦争(1894年：明治27年～1895年：明治28年)に勝利した日本にとっても重要な博覧会であり、伊藤博文や西園寺公望、有栖川宮などの推挙によって、博覧会事務官長に一介の商人「林 忠正：はやしただまさ」が抜擢される。彼は、事務官長の報酬は一切受け取らず、1,000年にわたる日本美術の総体を「日本古美術展」とし、万博会場に法隆寺[金堂を模した日本館](#)を造り、国宝級の美術品を展示。日本の芸術・文化を世界に顕示し、世界の知識人に、大きな感動を与えた。そして、海外公演で[川上音二郎](#)・[貞奴](#)夫妻はこの万博に来演し、夏目漱石はロンドン留学の途上、この万博会場を訪問している・・・

[林 忠正](#)(はやしただまさ)とは・・・

この国が明治維新を迎えようとしていた幕末の1853年(嘉永6年)百万石・前田藩領の越中高岡(現・富山県高岡市)の蘭方外科医・長崎家の次男として生まれる。明治3年、従兄の富山藩士・林太仲の養嗣子となり、林 忠正(以下、忠正と書く)を名乗る。翌年、藩費で学問を学ばせる制度の富山藩貢進生として「大学南校」に入学、明治6年に大学南校は改編されて「開成学校」となり、授業は外人教師により、すべて外国語で行われ、明治10年には「東京大学」と改称される。そして、忠正は1878年(明治11年)従兄の磯部四郎がパリ大学に留学していたこともあり、パリで行われる万国博覧会に参加する「起立(きりつ)工商会社」の通訳とし大学を中退して憧れのフランスに渡る。忠正24～5歳・・・

[日本が初めて万博に出展](#)したのは、明治維新前の1867年(慶応3年)のパリ博覧会で、幕府、薩摩藩、佐賀藩がそれぞれ出展

する。その後、日本政府として公式参加する1873年(明治6年)ウィーン博覧会で日本美術は高い関心を集め、[ジャポニスム](#)ブームがおこる。当然この1878年のパリ博覧会も日本美術への人気は高く、日本の工芸品は飛ぶように売れ、トロカデロ宮殿内の「歴史館」では、各国の参考品が展示され、特に日本に興味を持つ印象派の画家や評論家など、日本の展示物には連日のように見物客が多く、忠正は彼らに流暢なフランス語で詳しく説明し、その熱のこもった解説を通して、彼らとの親密な交友のドラマが始まる・・・

博覧会のあともパリに残った忠正は、元「起立工商会社」の副社長、若井兼三郎と共に、1884年(明治17年)パリ市内2区のルーブル美術館から少し上、パリ中心部のヴィクトワール広場(Place des Victoires, Paris, France)の[シテ・ドオトヴィル7番地に小さな美術店](#)「若井・林商会」を開店する。美術雑誌の主筆[ルイ・ゴンスの「日本美術」](#)の著述を手伝ったり、日本美術の鑑定整理やフランス人の著述にも協力し、[エドモン・ド・ゴンクール](#)や画商[サミュエル・ビング](#)、そしてドガやモネ、貧困のうちに死亡したシスレーの遺族ために700フランもの抛金など、印象派の画家達とも幅広く交流し、彼らが描いた絵と浮世絵との物々交換をしたり、彼らの作品を収集する。当時、浮世絵の価格はパリ市民の月給の約1ヶ月程で、その後、富豪たちが浮世絵コレクションを始め、浮世絵は高騰し、高価であっても飛ぶ様に売れた。1890年から約10年間で忠正が売りさばいた浮世絵や日本美術関係のものは156,487点と云われている。ちなみに[モネの浮世絵のコレクション](#)は211枚。[ゴッホは約500枚](#)でありジャポニスムブームの凄さが伺い知れる・・・

1900年のパリ万国博覧会后・・・

忠正がパリ万博事務官長に専念していた間、パリの日本美術の店は、末弟にあたる萩原 正倫にまかされていたが、翌年4月、帰国中の忠正のもとに弟肺結核の電報が届き、1902年1月に萩原 正倫は34歳でパリで客死する。後継者を失った店は、売り立て(店じまい)を余儀なくされ、27年余の画商活動で収集した日本を中心とする東洋美術品の総計数千点が1902年と1903年に2度のコレクションの売り立てに及んだ。余談だが、その時、詩人[リルケ](#)は北斎の「富嶽三十六景」「富嶽百景」を熟視し「山」と題する詩を残している・・・

日露戦争(1904年)後の1905年(明治38年)忠正はパリを後にする・・・

帰国時に500点余もの印象派のコレクションを持ち帰り、自分の手で西洋近代美術館を建てようとしたが、翌年の1906年(明治39年)果たせぬまま53年の生涯を終える・・・

没後、残念ながら、その忠正のコレクションは、数度に分け売却処分され海外等へ流出し、蔵書もバラバラに処分された。近年、研究検証が本格化し「[林忠正宛書簡集](#)」や「[林忠正宛書簡・資料集](#)」及び、彼の売り立ての目録「[林忠正コレクション・全5巻](#)」の復刻版が出版されている・・・

「[浮世絵](#)の価値を正確に世界に紹介し、[印象派](#)の作品を初めて日本にもたらした」忠正は、印象派と浮世絵の文化の橋渡しをしたにせよ、当時は宮廷絵師以外の絵は絵とは云われず、従ってそのどちらも美術史上現在の様な価値を持つてはいなかった。パリにおける印象派の価値は酷評を浴びせられながら、理解されない野蛮で品のない、単なる大衆画であり、そして、日本における浮世絵も、所詮生まれては消える浮き世の絵であり、吉原の色ごとを売りにおり混ぜた大衆絵か、ファッション雑誌の様に、あるいは大衆紙や現代のコミック誌の絵のレベルであったと云える。画家として先を見据える美への探求者達の価値が世に浸透するまでには、幾多の年月を費やして人々にその意味が伝わる。忠正がパリから持ち帰った印象派の絵は、当時の日本人には受け入れられず、パリで援助した[黒田清輝](#)を通過して、明治の世も落ち着きだした頃に日本の西洋画の基盤となっていく・・・

しかし、もともと美が如何なる価値を有するかを深く理解し、正しい価値を見いだせないこの国において、しかも西洋美術の本質が如何なるものかもわからない明治の時代において、忠正の眼は各々の価値を見事に捉え、現代の我々が認めるほどのレベルで、浮世絵がどれほどの価値を有し、印象派の絵が如何に美の本質を捉えていたかを知っていた。忠正は、画商と云う職業以上に、当時の世界を見据え、東洋と西洋の美の本質を見抜き、時代の流れをも正確に捉えていた人物と云える・・・

最後に、忠正が扱った浮世絵は優れた作品が多く、それらの浮世絵には「林忠正」の [小印](#)が捺され、現在でも、その作品の価値を保証するものとされている・・・

(以下・主要参考文献↓・注：一部本文中にリンクさせています)

1900年第5回パリ万博・19世紀最大の万博

名称：Exposition Universelle

開催期間：1900年4月15日～11月12日

場所：パリ（シャン・ド・マルス、トロカデロ、アンヴァリッド、シャンゼリゼ、セーヌ川兩岸）

入場者数：5,086万1,000人

<http://www.ndl.go.jp/exposition/s1/1900.html>

会場鳥瞰図～シャン・ド・マルス全景・・・画像1～15

<http://www.ndl.go.jp/exposition/data/R/254r.html>

<http://www.ndl.go.jp/exposition/data/R/260r.html>

サムネイル一覧（外観・遠景・記念門・動く歩道・熱気球から見たパリetc）

<http://www.ndl.go.jp/exposition/data/T/T023.html#a1>

第5回パリ万国博覧会：Exposition Universelle de Paris 1900, Expo 1900 (4月15日～11月5日)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/パリ万国博覧会_\(1900年\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/パリ万国博覧会_(1900年))

万国博覧会・歴史

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hakurankai/kako.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/林忠正>

木々 康子（林忠正の義孫で作家・木々康子氏のブログと本／以下）

<http://homepage3.nifty.com/kigiyasuko/list.html>

林忠正－浮世絵を越えて日本美術のすべてを（ミネルヴァ日本評伝選）[単行本]-木々 康子（著）

http://www.amazon.co.jp/林忠正－浮世絵を越えて日本美術のすべてを-ミネルヴァ日本評伝選-木々-康子/dp/4623054128/ref=pd_sim_b_1

林忠正・ジャポニズムを語る上で決して外すことのできない重要な人物がいます！浮世絵ぎやらしい

<http://ukiyoe.wafusozai.com/archives/41>

ドガと林忠正——交友についての覚書 | 三重県立美術館

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/catalogue/degas/arayashiki.htm>

林忠正宛書簡集—Correspondance adressee a Hayashi Tadamasu [ハードカバー]

文化財研究所東京文化財研究所

<http://www.amazon.co.jp/dp/4336043108?tag=honeypine->

22&camp=23&creative=239&linkCode=st1&creativeASIN=4336043108&adid=0DGNBR6A55WQ220ZGMFH

夢見た日本 [単行本]-小山 ブリジット（著）, 高頭 麻子（翻訳）, 三宅 京子（翻訳）

<http://www.amazon.co.jp/dp/4582833292?tag=honeypine->

22&camp=23&creative=239&linkCode=st1&creativeASIN=4582833292&adid=0SMFSYK7ZKGWFHGPTMM5

ルイ・ゴンス著「日本美術」全2巻＋解説冊子

<http://www.aplink.co.jp/synapse/4-931444-65-2.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/エドモン・ド・ゴンクール>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/サミュエル・ビング>

http://fr.wikipedia.org/wiki/Samuel_Bing

林忠正コレクションとパウラ・モーダーゾーン＝ベッカー（佐藤洋子）

<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/3468/1/33004.pdf>

巨匠が見た日本・(5)パリの邦人が橋渡し | とさあち

シテ・ドトヴィル7番地・小さな美術店「若井・林商会」 Place des Victoires, Paris, France

パリ中心部のヴィクトワール広場。ドラフォンさんによると、林はこのそばで開業していた。浮世絵を手にしたモネも、この辺りを歩いたかもしれない・・・

<http://www.tosasearch.com/mone/081111kyosyo01.htm>

先人に学ぶ。フランスに生きた日本人 | 西洋と東洋をつないだ男たち | フランス・ニュースダイジェスト

Cité d'Hauteville 75010 Paris

1883年、起立工商の元副社長、若井兼三郎と共に日本美術品を扱う店「若井・林商会」をこの地で開く。フランス語も堪能で日本美術の知識も豊富だった林は89年に若井との共同経営を解除し、「林商会」として再スタートを切った。

<http://www.newsdigest.fr/newsfr/content/view/4286/38/>

モネの浮世絵のコレクションは、211枚

<http://www.fondation-monet.fr/jp/content/浮世絵コレクション>

ゴッホとテオが収集した浮世絵約500点・・・

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ゴッホ美術館>

(注意：PDFおよびePubではリンクしていない場合があります)

Copyright © guchini All Rights Reserved